

科目「現代の国語」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	現代の国語	単位数	2単位	学年・学科	2学年・全科
使用教科書	『新編現代の国語』（東京書籍）				
副教材等	『国語必携 ライトパーフェクト演習』『常用漢字ダブルクリア』（尚文出版）				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成する。
学習の到達目標	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができ、実社会に必要な国語の知識や技能を身につける。
取得可能な資格	特記なし。
授業を受ける心構え	授業には意欲的・積極的に取り組み、教科書やノート類の忘れ物をしないこと。また、提出物は、必ず期限を守って出すこと。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4 5 6 7	ルリボシカミキリの青 〈言葉と生活：話す・聞く〉 水の東西 〈言葉と生活：読む〉	・筆者の熱中したことを表現に即して捉え、理解する。 ・本文の内容を踏まえて、自分自身の興味や関心について考え、スピーチする。 ・日本と西洋の対比の例から、文化や考え方の違いを理解する。 ・日本文化について、考えたことを発表する。	一斉授業 (座学)	平常考査 中間考査 (5月中旬) 学期末考査 (6月下旬)
9 10 11 12	スキマが育む都市の緑と 生命のつながり 鍋洗いの日々 美しさの発見	・都市部のスキマに植物が生える理由について考え、生態系の果たす役割について知る。 ・働く人の思いを理解し、社会の中で生きる自分の将来について考える。 ・知識の世界を広げる「発見」と、心の世界を広げる「発見」を理解する	一斉授業 (座学)	平常考査 中間考査 (10月) 学期末考査 (11月下旬)
1 2 3	真の自立とは 〈言葉と生活：書く〉	・「できる」「できない」「自立」「独立」について筆者の考えを理解し、現代における「大人になる」とはどういうことかを話し合う。	一斉授業 (座学)	平常考査 学年末考査 (2月)

3. 評価の観点と方法

知識・技能 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	主体的な学び 【 】は評価方法
国語分野の基礎的・基本的な漢字・語句・語彙・文法・表現を理解し、生活全般に必要な知識を身に付けようとしている。 【考査、授業態度、発表】	文章の意図を読み取り、要旨をまとめると共に自身の思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、「話す」「書く」といった表現する能力を身に付けている。 【考査、レポート、授業態度】	文章内容への関心を持ち、意欲的に「聞く」態度を持つ。国語を理解することへの向上を目指して、「話す」「書く」ことに主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。 【考査、レポート、出席状況】

4. 評価の規準(評価項目については、各教科・科目で検討ください)

評価の観点 評価項目	知識・技能	思考・判断・表現	主体的な学び	比率(%)	その他
定期考査	30	20		50	学習到達度の確認
平常考査	10	10	10	30	予習・復習の確認
提出物等			10	10	
授業態度・発表			10	10	
				100%	

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
公民	公共	全学科	2	2	高等学校 公共(帝国書院)	なし

1 科目の目標と評価の観点

目標	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。					
評価の観点	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体的に学習に取り組む態度	
	現代の諸課題を考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解する。資料から必要な情報を調べまとめる技能を身につける。		現代社会の諸課題の解決に向けて、事実をもとに多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら考えたことを議論する力を養う。		よりよい社会の実現を視野に現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。	
評価の方法・割合等	定期考査 平常考査 課題プリント 等		定期考査 平常考査 課題プリント 等		平常課題 夏課題 授業態度・発表 等	
	4割		3割		3割	

2 学習計画と観点別評価基準 ※履修月は目安

学習内容		月	観点別評価基準等		
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
第1部 第1章	1節 青年期と社会参画	4	自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としてのあり方生き方について理解している。	他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現している。	公共的な空間における課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。
	2節 宗教・思想・伝統社会と文化	5	宗教が人々に与えているものを理解するために必要な知識を理解し身に付けている。	人々の生活と宗教の関わりの資料を収集し、宗教が人々の生活にもたらすものについて思考し、その内容をわかりやすく表現している。	宗教や日本の伝統文化について積極的に調べている。
第1部 第2章	1節 倫理的な見方・考え方		選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解している。	思考実験など通して、人間としてのあり方生き方を多面的・多角的に考察し、表現している。	様々な思想について積極的に学ぼうとしている。
第1部 第3章	第1節 社会の基本原理と憲法の考え方	6 7 9	人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について日本国憲法を踏まえて理解している。	公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現している。	公共的な空間における基本的原理について、日本国憲法を踏まえて現代社会に見られる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。
第2部 第1章	1節 法の意義と司法参加	10 11	法に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解している。	自立した法的主体として解決が求められる具体的な主題について、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。	法や規範の意義及び役割、多様な契約及び消費者の権利と責任、司法参加の意義などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。
第2部 第2章	1節 民主社会と政治参加	12	政治参加と公正な世論の形成、地方自治などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれていくものであることについて理解している。	自立した政治主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。	政治参加と公正な世論の形成、地方自治などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。

	2 節 国際政治の動向と 平和の追求	1	よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解している。	自立した政治主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。	我が国の安全保障と防衛, 国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる課題の解決を視野に, 主体的に社会に関わろうとしている。
第 2 部 第 3 章	1 節 市場経済のしくみ	2	市場のしくみや金融、財政のしくみについて理解している。	自立した経済主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。	市場経済の機能と限界, 金融の働き, 財政及び租税の役割などに関わる課題の解決を視野に, 主体的に社会に関わろうとしている。
	2 節 豊かな社会の実現		豊かな社会実現のためのしくみや制度について理解している。	豊かな社会の実現に向けて、様々な資料をもとに多面的・多角的に考察し、表現している。	職業選択, 雇用と労働問題, 少子高齢社会における社会保障の充実・安定化などに関わる課題の解決を視野に, 主体的に社会に関わろうとしている。
	3 節 国際経済の動向と 格差の是正	3	国際経済の仕組みについて理解している。	国際経済の仕組みについて多面的・多角的に考察し、表現している。	経済のグローバル化と相互依存関係の深まり (国際社会における貧困や格差の問題を含む) などに関わる課題の解決を視野に, 主体的に社会に関わろうとしている。

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
数学	数学Ⅰ	全学科	2	3	新 高校の数学Ⅰ (数研出版)	ポイントノート数学Ⅰ (数研出版)

1 科目の目標と評価の観点

目標	数と式や2次関数について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。					
評価の観点	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体的に学習に取り組む態度	
	三角比や集合と命題、データの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数式化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。		三角比を図形的に見るだけでなく座標平面に応用して拡張する力や、データの関係性に着目し、データを的確に分析してその特徴を表、式、図で表し相互に関連付けて考察する力を養う。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	
評価の方法・割合等	定期考査 平常考査 課題プリント 等		定期考査 平常考査 課題プリント 等		平常課題 夏冬課題 ポートフォリオ 授業態度・発表 等	
	4割		3割		3割	

2 学習計画と観点別評価基準 ※履修月は目安

学習内容		月	観点別評価基準等		
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
第3章 第1節 三角比	1. 直角三角形	4	○三角形の相似の条件を知って活用できる。 ○三平方の定理の意味を理解し、2次方程式の計算をすることにより辺の長さを計算することができる。	○三角定規の3辺の比を知っており、それを利用して辺の長さを求めることができる。	○相似の性質や三平方の定理を使って残りの辺の長さを求めようとする。
	2. 三角比		○正弦・余弦・正接の意味を理解し、その値を求めることができる。 ○30°、45°、60°の三角比の値を求めることができる。	○求める三角比の角が左下にない場合にも工夫をして値を求めることができる。	○30°、45°、60°の三角比の表を作成して関連性を調べようとする。
	3. 三角比の利用	5	○三角比の表を使って、三角比の値を調べることができる。 ○三角比の表を使って、残りの辺の長さやおおよその角の大きさを求めることができる。	○辺の長さを調べるときにどの三角比の値を利用するのかを理解している。	○塔の高さなど実測できないものについて、三角比の表を使って調べようとする。
	4. 三角比の相互関係	6	○三角比の相互関係の式を2つとも知っている。 ○三角比の相互関係を利用して残りの三角比の値を求めることができる。	○直角三角形の図を使って、残りの三角比の値を求めることができる。	○三角比の相互関係を式を変形して導こうとする。
	5. 鈍角の三角比		○鈍角の三角比の定義を理解し、その値を求めることができる。 ○相互関係や(180°-θ)の公式を用いて三角比の値を求めることができる。	○鈍角の三角比についての表の意味を理解している。	○鈍角の三角比についての表を作ろうとする。
第2節 三角比の応用	1. 正弦定理	7	○正弦定理の意味を理解し、それを利用して辺の長さや角度を求めることができる。	○正弦定理が2つの対辺と対角がある場合に使うことができることを理解している。	○正弦定理を場合に応じて分解して使おうとする。
	2. 余弦定理	9	○余弦定理の意味を理解し、それを利用して辺の長さや角度を求めることができる。	○余弦定理が2つの辺とその間の角または、3辺が与えられたとき使うことができることを理解している。	○三平方の定理が余弦定理の特別な場合であることを知ろうとする。
	3. 三角形の面積		○三角形の面積の公式の意味を理解し、それを利用して面積を求めることができる。	○三角形の面積の公式を導く過程を理解している。	○小学校で学習した三角形の面積の公式との関連性を調べようとする。

用					
第2章 集合と論理	1. 集合	10	☐ 集合について理解している。 ☐ 共通部分・和集合・補集合の意味を理解し、それを求めることができる。 ☐ 集合の個数を求めることができる。	☐ $n(A) + n(B)$ が A と B の和集合の個数にならないことを理解している。	☐ ベン図を使って集合の要素を具体的に調べようとする。
	2. 命題と集合		☐ 命題および真偽について理解している。 ☐ 反例や否定の意味を知っており、それを求めることができる。	☐ 数直線を利用して真偽を判定することができる。	☐ 集合を用いてその命題の真偽を調べようとする。
	3. 必要条件と十分条件	11	☐ 必要条件と十分条件について理解しており、その条件が何条件かを求めることができる。	☐ 集合や数直線を利用して何条件かを調べることができる。	☐ 命題の逆や対偶を自分で作ろうとする。
第3章 データの分析	1. データの整理	12	☐ データの度数や階級について知っており、度数分布表やヒストグラムを作ることができる。 ☐ 階級地の意味を知っている。	☐ 度数分布表やヒストグラムを見て、データの分布の特徴について考えることができる。	☐ データについて関心を持って調べようとする。
	2. データの代表値		☐ 最頻値・中央値・平均値をデータから求めることができる。	☐ 最頻値・中央値・平均値の意味を理解している。	☐ 最頻値・中央値・平均値よりデータの特徴を調べようとする。
	3. データの散らばり		☐ 四分位数を求めて、箱ひげ図を書くことができる。 ☐ 分散や標準偏差を計算により求めることができる。	☐ データが奇数個、偶数個のときの中四分位数をそれぞれ求めることができる。	☐ 箱ひげ図や標準偏差の値からデータの散らばりを調べようとする。
	4. データの相関	1 2 3	☐ 散布図によりデータの散らばり具合を調べて、2つのデータの相関を調べることができる。 ☐ 相関係数を求めて、2つのデータの相関を調べることができる。	☐ 散布図や相関係数により、正の相関がある・負の相関がある・相関がないことを判断することができる。	☐ 2つのデータの相関を予測し、図や計算で確認しようとする。
	5. 仮説検定の考え方		☐ 仮説検定の意味を理解している。	☐ データに対してその仮説が正しいか計算で求めることができる。	☐ データをもとに自分で仮説を立てて調べようとする。

令和5年度 化学基礎 シラバス

対象教科・科目	単位数	学年・学級
化学基礎	2 単位	2 年畜産科学科, 2 年食品化学科
使用教科書・副教材等	東京書籍「新編化学基礎」(化基 702), ニューサポート新編化学基礎	

1 学習の目標

・日常生活や社会との関連を図りながら, 物質とその変化について理解するとともに, 科学的に探究するために必要な観察, 実験などに関する基本的な技能を身に付ける。
・観察, 実験などを行い, 科学的に探究する力を養う。
・物質とその変化に主体的に関わり, 科学的に探究しようとする態度を養う。

2 学習計画及び評価方法等

学 期	月	学習内容	学習活動	考 査 範 囲	評価の方法		
					知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
1 学 期	4	1 編 化学と人間生活 1 章 化学とは何か (2h)					
		化学とは何か	・身のまわりの製品には、その物質の性質がうまく利用されていることに気づく。 ・2 種類の物質を区別する方法を考え、実際に分離する。 ・物質には性質があり、私たちはそれを利用して生活していることを理解する。		○ ○	○ ○	
	5	1 編 化学と人間生活 2 章 物質の成分と構成元素 (8h)					
		1 節 物質の成分 (3h) ・純物質と混合物	・純物質と混合物の性質を理解する。 ・混合物から成分を分離する方法があり、物質の性質によるものであることを理解する。 ・混合物に含まれる成分を、その性質の違いによって分離する方法を選択できる。	1 学 期 中 間	○ ○	○ ○	○ ○
		2 節 物質の構成元素 (3h) ・元素 ・単体と化合物 ・元素の確認	・物質を構成する元素は、約 120 種類あることを知る。 ・純物質は、単体と化合物に分類されることを理解する。また、同素体があることを知る。 ・元素を確認する方法に、炎色反応や沈殿の生成があることを理解する。 ・炎色反応の色から、水溶液中に含まれる元素を推測する。		○ ○ ○	○ ○	○ ○

		3 節 物質の三態 (2h) ・ 粒子の熱運動 ・ 物質の三態と状態変化	・ 物質には三態があり、それぞれ構成する粒子がどのように運動しているか推察する。 ・ 状態変化によって体積がどのように変化するか、粒子のふるまいと関係について考察する。 ・ 物質が自然に広がっていく現象を拡散といい、その現象は熱運動によることを理解する。 ・ 状態変化には粒子の熱運動が関係していることを理解する。		○	○	○
					○	○	○

1 学 期	5	2 編 物質の構成 1 章 原子の構成と元素の周期表 (5h)					
		1 節 原子の構造 (2h) ・ 原子 ・ 同位体	・ 原子の大きさや構造について知る。 ・ 原子の構造から陽子、中性子、電子の性質を理解する。 ・ 原子番号は、原子に含まれる陽子の数であることを知る。 ・ 質量数が陽子の数と中性子の数であることがわかり、同じ原子であっても質量数の異なるものがあることに気づく。放射性同位体が年代測定や医療などに使われていることを知る。	1 学 期 期 末	○	○	○
	6	2 節 電子配置と周期表 (3h) ・ 原子の電子配置 ・ 元素の周期表	・ 電子配置で電子殻への電子の収まり方を知る。 ・ 貴ガスの性質から閉殻を知り、極めて安定な電子配置があることに気づく。 ・ 最外殻電子と価電子を知る。また貴ガスの場合を知る。 ・ 電子配置は原子番号の順に規則正しく変化することを理解する。		○	○	○

		2 編 物質の構成 2 章 化学結合 (14h)					
--	--	--------------------------	--	--	--	--	--

1 学 期	7	1 節 イオンとイオン結合 (4h) ・イオンの生成 ・イオン化エネルギー ・イオン結合とイオン結晶	・身のまわりの物質は原子やイオンがどのような結びつきでできているかを考える。 ・電子配置からイオンの生成を理解する。 ・イオン化エネルギーの周期性に気づく。 ・イオン結合の形成について理解する。		○ ○	○	○ ○
		2 節 分子と共有結合 (6h) ・共有結合と分子の形成 ・高分子化合物 ・配位結合 ・電気陰性度と分子の極性 ・分子間力と分子結晶 ・共有結合の結晶	・分子は、非金属元素の原子が結びついてできた粒子であることを知る。 ・共有結合の形成、分子式や構造式について理解する。 ・配位結合の形成を理解し、錯イオンについて知る。 ・分子の融点、沸点、水への溶解性から構成原子の電気陰性度が影響していることに気づく。 結合の極性を知り、極性分子と無極性分子について理解する。 ・分子の性質と溶解性の違いを確認する。 ・分子結晶の性質、共有結合の結晶の性質の違いを比較しながら理解する。		○ ○ ○ ○ ○	○	○
		3 節 金属と金属結合 (2h) ・金属結合	・金属は、金属元素の原子が規則正しく配列してできた結晶であることを知る。 ・自由電子のふるまいがわかり、金属結合の仕組みを理解する。 ・金属の性質について理解する。		○ ○ ○		
		4 節 化学結合と物質の分類 (2h) ・化学結合と性質の分類	・結合の種類から物質の大まかな性質について分類し考察する。 ・周期表の分類と結合の種類との間に、どのような関係性が見られるか考える。			○ ○	○ ○

2 学 期	9	3 編 物質の変化 1 章 物質と化学反応式 (10h)					
		1 節 原子量・分子量・式量 (2h) ・原子の相対質量 ・原子量 ・分子量・式量	・原子 1 個の質量は極めて小さいため、原子の相対質量とは基準として決められたある原子の質量との比較で求めた相対質量であることを知る。 ・天然に存在する多くの元素には一定の割合で同位体が存在するため、原子量はその加重平均の値であることを理解する。 ・原子量、分子量、式量のそれぞれが表す値を理解する。		○ ○	○	○

	10	2 節 物質質量 (2h) ・アボガドロ数と物質質量 ・1 mol の気体の体積	・粒子の数に基づく量の表し方が物質質量であることを知る。 ・物質質量とその単位の mol の関係、さらに原子量・分子量・式量との関係やモル質量との関係がわかり、それらの単位変換を理解する。 ・物質質量と気体の体積との関係がわかり、それらの単位変換を理解する。気体の密度と分子量、空気の平均分子量について理解する。 ・物質質量を中心とした量的関係を理解する。	2 学 期 中 間	○		
		3 節 溶液の濃度 (2h) ・溶液の濃度	・モル濃度による溶液の濃度の表し方を理解する。 ・質量パーセント濃度とモル濃度の違いを考える。		○	○	○
		4 節 化学反応の表し方 (2h) ・化学反応式, イオン反応式	・化学反応式やイオン反応式の書き方やそれが表している内容を理解する。		○		
		5 節 化学反応の表す量的関係 (2h) ・化学反応の表す量的関係	・化学反応式の係数が表している量的関係を考える。 ・銅の酸化の実験から、質量の関係をみいだして考察する。 ・化学変化に伴う質量変化に注目した化学の基本法則を知る。		○	○ ○	○

2 学 期	11	3 編 物質の変化 2 章 酸と塩基 (10h)					
		1 節 酸と塩基 (3h) ・酸と塩基の性質 ・酸と塩基の定義 ・酸と塩基の価数	・酸と塩基の性質について理解する。実験を通して確認する。 ・アレーニウスの酸・塩基の定義を理解する。 ・ブレンステッド・ローリーの酸・塩基の定義を理解する。 ・酸と塩基の価数を理解し、電離度を比較して酸と塩基の強弱の違いを考察する。	2 学 期 期 末	○	○	○
		2 節 水素イオン濃度と pH (3h) ・水素イオン濃度 ・水素イオン濃度と pH ・pH 指示薬と pH の測定	・水溶液の酸性・塩基性は、水素イオン濃度の大小で表せることを知る。 ・水溶液の水素イオン濃度は広い範囲で変化するため、pH でも表せることを理解する。 ・pH 指示薬と変色域により、水溶液の pH が測定できることを知る。 ・実験観察を通して、身近な物質の pH や希釈した水溶液の pH の変化を比較し考える。		○ ○ ○	○	○

	12	3 節 中和反応と塩の生成 (2h) ・ 中和反応と塩の生成 ・ 塩の種類	・ 酸と塩基が完全に中和するときの変化を化学反応式で理解する。 ・ 酸と塩基が完全に中和したときの塩の水溶液が中性になるとは限らないことがわかる。 ・ 実験観察を通して、塩の水溶液の pH を測定して考察する。		○		
		4 節 中和滴定 (2h) ・ 中和滴定の量的関係 ・ 中和滴定 ・ 滴定曲線	・ 中和の条件は、酸から生じる H^+ の物質量和塩基から生じる OH^- の物質量が等しくなることだとわかる。 ・ 中和滴定に用いる器具の使い方がわかり、中和滴定の実験操作を理解する。 ・ 実験観察を通して基本的な技能から食酢の濃度を求め、得られた結果を分析して中和反応の量的関係を理解する。 ・ 酸と塩基の組み合わせによる滴定曲線を比較し、適切な指示薬の使い分けを理解する。		○		
					○		○
					○		○
					○	○	○

3 編 物質の変化 3 章 酸化還元反応 (14h)							
3 学 期	1	1 節 酸化と還元 (3h) ・ 酸化と還元 ・ 酸化数と酸化還元反応	・ 酸素原子や水素原子が関係していない反応についても、酸化と還元が電子の授受によって統一的に説明できることを理解する。 ・ 酸化数は、原子やイオンがどの程度の酸化や還元をされているのかを示す数値であることを理解する。反応前後の酸化数の増減により、酸化と還元が確認できることを理解する。	学 年 末	○		
		2 節 酸化剤と還元剤 (5h) ・ 酸化剤と還元剤	・ 代表的な酸化剤、還元剤は過マンガン酸カリウムや過酸化水素などであることを知る。 ・ 酸化還元反応の化学反応式の作ることができ、この反応の量的関係を理解する。		○	○	○
					○	○	○

	2	3 節 金属の酸化還元反応 (2h) ・金属のイオン化傾向	・金属の陽イオンへのなりやすさを比較し、金属の反応性に違いがあることを知る。 ・金属の反応性の違いは、金属のイオン化傾向と深い関係があることを理解する。		○	○	○
		4 節 酸化還元反応の応用 (4h) ・電池のしくみ ・実用電池 ・金属の製錬	・実験観察を通して、金属のイオン化傾向と電流の流れる向きを比較し関係性を考える。 ・ダニエル電池のしくみを理解する。 ・身近に使われている実用電池の構造、それらの用途や特徴を知る。 ・金属の製錬には酸化還元反応が関わっていることを知る。		○ ○ ○ ○	○	○ ○

3 学 期	3	3 編 物質の変化 終章 化学が拓く世界 (5h) 巻末資料 (2h)					
			・化学基礎で学んできたことが日常生活や社会生活を支えている科学技術と結びついていることを理解する。	学 年 末	○	○	○

科目「 体育 」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	体育	単位数	2 単位	学年・学科	全学科 2 学年
使用教科書	なし				
副教材等	アクティブスポーツ 2022				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	体を動かし、爽快感、達成感、他者との連帯感、楽しさや喜びを味わい、体力向上、ストレスの発散、生活習慣病予防等の効果をもたらす、心身両面の健康の保持増進を促す。
学習の到達目標	生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。
取得可能な資格	特記なし
授業を受ける心構え	欠席や忘れ物をすることなく、主体的に授業に出席する。公正な態度で、協力的に動き、行動に責任を持つ。水泳および長距離走は完全実施（補習がある）。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4	体づくり運動	○体を動かす、心と体をほぐす、動きを高める	一斉・グループ 個別	ラジオ体操 水泳 球技 補習（水泳）
5	集団行動、ラジオ体操	○集団行動を学ぶ、ラジオ体操を学ぶ		
6	水泳・球技選択	○4泳法に挑戦するとともに、命について学ぶ		
7		○仲間との協力とともに技能を高める		
9	球技選択	○仲間との協力とともに技能を高める。	一斉・グループ 個別	球技 陸上競技 補習（長距離） ロードレース
10	体育理論	○公正、協力、責任、参画の態度を学ぶ。		
11	陸上競技（長距離走）	○運動の持続力、集中力を高め、タイムに挑戦する。		
12	球技選択			
1	体づくり運動	○体力の向上に重点を置き、体力を高めるための運動、実生活に生かせる運動を行う。	一斉・グループ 個別	球技 陸上競技
2	球技選択			
3	体育理論	○活動計画を立て、実践する。		

3. 評価の観点と方法

知識・技能 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度 【 】は評価方法
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけている。 【技能テスト・記録測定・理解度チェック、観察】	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 【観察、発表、ワークシート、レポート】	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保している。 【観察・授業態度、出席状況】

4. 評価の規準

評価の観点 評価項目	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	比率(%)	その他
授業観察・テスト	40	10	10	60	
提出物等		10		10	
授業態度・発表		10	10	20	
出席状況			10	10	
				100%	

科目「保健」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	保健	単位数	1単位	学年・学科	全学科2学年
使用教科書	現代高等保健体育(大修館)				
副教材等	現代高等保健ノート(大修館)				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	健康に関する興味関心や課題解決への意欲を高めるとともに、知識を活用して思考力、判断力を育成する。
学習の到達目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力が身につく。
取得可能な資格	特記なし
授業を受ける心構え	主体的に授業に参加し、定期考査を受ける。提出物を必ず提出する。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4 5 6 7	健康の考え方 生活習慣病などの予防と回復	○健康の考え方と成り立ち、疾病構造の変化 ○生活習慣病とその予防、がんの予防 ○食事、運動等と健康	一斉授業 グループワーク	平常考査 学期末考査
9 10 11 12	喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 精神疾患の予防と回復 現代の感染症とその予防	○喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 ○精神疾患の特徴、予防 ○健康に関する意思決定、行動選択 ○現代感染症と予防	一斉授業 グループワーク	平常考査 学期末考査
1 2 3	安全な社会作り 応急手当	○事故の現状と発生要因 ○交通安全 ○応急手当の意義とその基本 ○日常的な応急手当○心肺蘇生法とその原理	一斉授業 グループワーク 実習	平常考査 学年末考査

3. 評価の観点と方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習する態度
評価の観点	生涯を通じると健康、社会生活と健康について関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。	生涯を通じる健康、社会生活と健康について課題の解決を目指して総合的に考え、判断しそれらをあらわしている。	生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
評価の方法割合等	・定期考査・平常考査 ・提出物・発表	・定期考査 ・提出物 ・授業状況 ・平常考査 ・発表	・定期考査 ・平常考査 ・授業態度・出席状況
	4割	3割	3割

科目	英語コミュニケーションⅡ	単位数	2単位	学科・学年	全学科 2年
使用教科書	COMET English Communication Ⅱ（数研出版）				
副教材等	COMET基本文法定着ドリル①、②（数研出版）、チャンクで英単語Basic、ドリルノート（三省堂）				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	積み重ねの教科であり、中学校の基礎から高校の基礎につなぐ。
学習の到達目標	1. 積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとすることができる。 2. 聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解することができる。 3. 話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えることができる。 4. 言語についての知識を身につけ、背景にある文化を理解することができる。
取得できる資格	実用英語技能検定
授業を受ける心構え	授業に積極的に参加し、教材プリントやノートをきちんと仕上げ、提出する。

2. 計画 観点別評価：【主体的に学習に取り組む態度】（＝【主】）、【知識・技能】、【思考・判断・表現】

月	学習内容	学習活動・ねらい	言語材料・言語活動	その他・ 考查
4 5	Lesson 1 Places Worth Visiting	・ダイキとエラの旅先での体験について本文から概要や要点を把握しようとする。【主】 ・取り上げられた語句の意味を理解し、正しく発音する技能を身につける。【知識・技能】 ・S＋V＋O＋to 不定詞の用法を理解している。【知識・技能】 ・行ってみたい場所を発表するために、情報や考えを整理して書いている。【思・判・表】	・関連する語句 ・want＋人＋to do ・行ってみたい場所について英語で書く・発表する	平常考查 中間考查
6 7	Lesson2 Iwago Mitsuaki パフォーマンステスト	・岩合氏のアフリカでの体験やネコを撮影するコツについて本文から概要や要点を把握しようとする。【主】 ・取り上げられた語句の意味を理解し、正しく発音する技能を身につける。【知識・技能】 ・疑問詞＋to 不定詞の用法を理解している。【知識・技能】 ・学習した語句を使って自分の意見を話し、書くことができる。【思・判・表】	・関連する語句 ・疑問詞＋to 不定詞 ・お気に入りの写真について英語で自分の意見を書いたり、話したりする。	平常考查 期末考查
9 10	Lesson 3 The Haka	・ハカについて本文から概要や要点を把握しようとする。【主】 ・取り上げられた語句の意味を理解し、正しく発音する技能を身につける。【知識・技能】 ・分詞の用法を理解している。【知識・技能】 ・分詞を用いて、自分の周りについて伝え合う技能を身につける。【知識・技能】 ・興味のある世界の文化について英語でまとめ、発表できる。【思・判・表】	・関連する語句 ・分詞 ・興味のある世界の文化について書いたり、話したりする。	平常考查 中間考查
11 12	Lesson 4 Digital Detox パフォーマンステスト	・デジタル機器の使い過ぎによる問題とデジタルデトックスについて本文から概要や要点を把握しようとする。【主】 ・取り上げられた語句の意味を理解し、正しく発音する技能を身につける。【知識・技能】 ・if 節・疑問詞節の用法を理解している。【知識・技能】 ・自分の気持ちや考えを伝えるために、if 節や疑問詞節を用いて短い英文を書いたり、ペアで話し合ったりできる。【思・判・表】	・関連する語句 ・if 節・疑問詞節 ・デジタルデトックスについて意見を書いたり、発表する。	平常考查 期末考查
1 2 3	Lesson 5 Goal Setting パフォーマンステスト Lesson 6 The High School Hair Salon	・目標設定において重要なことについて本文から概要や要点を把握しようとする。【主】 ・取り上げられた語句の意味を理解し、正しく発音する技能を身につける。【知識・技能】 ・seem＋to 不定詞の用法を理解している。【知識・技能】 ・自分の目標について発表するために、情報や考えを整理して書いている。【思・判・表】 ・高校生美容室の活動内容や部員の思いについて本文から概要や要点を把握しようとする。【主】 ・助動詞＋have＋過去分詞の用法を理解している。【知識・技能】 ・就きたい職業について情報や考えを整理して書いている。	・seem＋to 不定詞 ・自分が立てた目標についてやり取りする。 ・助動詞＋have＋過去分詞 ・就きたい職業について発表する。	平常考查 学年末考查

3. 評価の観点と方法

知識・技能 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度 【 】は評価方法
・基本的な単語や語句の意味を理解し、正しく発音できる。 ・例文を暗記でき、簡単な内容の英文が理解できる。 【授業中の態度】 【定期考查・平常考查】 【パフォーマンステスト】 【提出物】	・自分の考えや意見を基本的な英語を使って表現できる。 【授業中の態度】 【定期考查・平常考查】 【パフォーマンステスト】 【提出物】	・授業中に積極的に質問したり、答えようとしている。 ・他の生徒の発表を聞いたり、発表しようとしている。 ・提出物を期限を守って提出している。 【授業中の態度】 【出席状況】 【パフォーマンステスト】 【提出物】
4割	3割	3割

科目「家庭総合」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	家庭総合	単位数	2単位	学年・学科	2学年・農業、園芸、畜産科学、食品化学
使用教科書	家庭総合 自立・共生・創造（東京書籍）				
副教材等	なし				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	家族や家庭の生活の営みを総合的にとらえ、生活をマネジメントする能力を育てる
学習の到達目標	生活のなかで課題を見いだし、それを解決するための手立てを考え実践に繋げる
取得可能な資格	なし
授業を受ける心構え	社会の動きに関心を持ち、把握するとともに、生活情報を収集し、生活課題に取り組む

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4 5 6 7	子どもの発達と保育・福祉 ・子どもの発達と生活 ・親の役割と子育て支援 高齢者の生活と福祉 ・高齢者の生活と課題	・子どもの心身の発達を理解する ・親の役割を考え、子育て支援制度について知る。 ・高齢者の心身の特徴を理解し、高齢者や家族が抱える課題を知る。	・調理実習 ・絵本の読み聞かせ ・調理実習	レポート 小テスト 学期末考査
9 10 11 12	・高齢社会の福祉 共生社会における地域や家族 食べる	・福祉制度を理解し、これからの高齢社会について考えることができるようになる ・地域福祉と社会保障について理解する ・栄養素のはたらきを理解させる	・一斉授業 ・調理実習	レポート 小テスト 学期末考査
1 2 3	・食品と栄養 ・食品の衛生と安全 ・これからの食生活	・正しい食品の選択ができるようになる ・基礎的な調理技術を身につけさせる ・持続可能な食生活について考える	・一斉授業 ・調理実習	レポート 小テスト 学年末考査

3. 評価の観点と方法

知識・技能 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度 【 】は評価方法
生活を主体的に営むために必要な保育および高齢者福祉・食生活などについて科学的に理解しているとともに、それらにかかる技能を体験的・総合的に身につけている。	生涯を見通して保育および高齢者福祉・食生活における生活の中から問題を見い出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や地域社会の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。
【定期考査・小テスト】	【定期考査、小テスト、レポート 課題プリントなど】	【レポート、授業態度等】
4割	3割	3割

教科(科目)	農 業	単位数	2 単位	学年・学科	2 学年 畜産科学科
使用教科書					
副教材等	畜産（実教出版）				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	各部門の家畜の飼育管理方法を身につける
学習の到達目標	実習を通して、家畜の飼育管理技術・生理生態を理解する
取得可能な資格	
授業を受ける心構え	命を扱っているという自覚と安全性への意識

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・ 考査
4 5 6 7	課題項目の設定と防疫 育成牛の飼育管理 搾乳とサンプリング 豚の繁殖・生理	自らの課題の設定及び衛生飼養管理基準について 仔牛と搾乳牛の違いを理解する 泌乳生理を理解し、サンプリング方法を知る 豚の繁殖方法と発情周期、発見について理解する	・一斉授業 ・実習・ 観察	学期末考査
9 10 11 12	子豚の分娩介助 犬の繁殖と特性 犬のしつけ 馬の使用管理	子豚の分娩介助と切歯、断尾、ワクチネーション 犬の特性を理解し、繁殖方法を知る 犬の社会化を生かした、しつけについて学ぶ 馬の使用管理について理解する	・一斉授業 ・実習・ 観察	学期末考査
1 2 3	馬の構造と機能 各家畜の病気 まとめ	馬の運動生理とその特徴について理解する 各家畜の病気について知る 年間のまとめ	・一斉授業 ・実習・ 観察	学年末考査

3. 評価の観点と方法【 】は評価方法

評価の観点	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	各家畜の特性に関する基礎的・基本的な知識・技術を身につけ、産業としての価値を理解できる。 各家畜の飼養管理を学び、実習で適切な管理法を実践できる。 家畜の健康状態を観察し、状況を把握することができる。	学ぶ目的と学び方及び学習分野について考察する。	各家畜の特性や生態・習性に関心を持ち、意欲的に実習に参加する
評価方法・割合	【授業・実習態度、考査、出席状況】	【レポート、授業態度】	【授業・実習態度】
	4 割	3 割	3 割

科目「農業と情報」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科	農業と情報	単位数	2単位	学科・学年	畜産科学科2年
使用教科書	『農業と情報』 実教出版 発行				
参考資料	特記なし				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	農業に関する情報の整理や分析、計算、発表スライドを作るなどを通して情報処理に関する知識と技術を習得させていく。また、「ワープロ実務検定試験」、「情報処理検定試験」、「文書デザイン検定試験」などの合格を目指す。
学習の到達目標	①農業に関する情報について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ②農業情報の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ③農業に関する情報について主体的に調査・分析・活用ができるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
取得可能な資格	(上記の資格の取得を目指す)
授業を受ける心構え	技術の習得とさらなる向上を目指し、演習に対し積極的に取り組む。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4 5 6 7	3. コミュニケーションと情報デザイン	さまざまなアプリケーションソフトウェアの演習を通して、実際の情報処理の過程を理解するとともに、自分で活用できるように基本的な技術を身に付ける。 また、問題解決の過程やアイデアや気づきを引き出す思考技術を理解する。 (表計算ソフトの活用)	・一斉授業 ・演習 ・グループ実習	中間考査 期末考査 平常考査
9 10 11	3. コミュニケーションと情報デザイン	さまざまなアプリケーションソフトウェアの演習を通して、実際の情報処理の過程を理解するとともに、自分で活用できるように基本的な技術を身に付ける。 また、問題解決の過程やアイデアや気づきを引き出す思考技術を理解する。 (プレゼンテーションソフトの活用)	・一斉授業 ・演習 ・グループ実習	中間考査 期末考査 平常考査
12 1 2 3	4. スマート農業への展望	スマート農業やAI等の計測・制御・通信の仕組み、データベースによる情報蓄積や管理の概念、モデル化やシュミレーションの方法や考え方を理解する。また、プログラミングに関する基礎的・基本的な知識と技術を身に付け、プログラミングの意義や役割を理解する。	・一斉授業 ・演習 ・グループ実習	学年末考査 平常考査

3. 評価の観点と方法

評価の観点	知識・技術 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度 【 】は評価方法
	農業と情報について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	農業と情報に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	農業と情報について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価の方法・割合等	【定期考査】 【平常考査】 確認テスト 実習 等	【定期考査】 【平常考査】 授業態度・発表 提出物	【平常考査】 ポートフォリオ 自己・相互評価 授業態度・発表 提出物
	4 割	3 割	3 割

科目「 畜 産 」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	農 業	単位数	2 単位	学年・学科	2 学年 畜産科学科
使用教科書	畜産（実教）				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	日本の畜産の特徴、家畜の生理生態及び特性、飼養管理について学ぶ
学習の到達目標	家畜、特に牛の特性や飼育管理の基礎・基本、飼料の利用について知識を深める
取得可能な資格	
授業を受ける心構え	命を大切にする心を養い、学ぶ姿勢をもつ

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4	日本の畜産の特徴	日本の畜産について、世界と比較し、その特徴を理解させる。 家畜に関する基本的知識と技術を理解させる。 家畜の生理生態と環境を理解させる。	一斉授業	中間考査 学期末考査
5	畜産の役割			
6	科学の発展と畜産への活用			
7	家畜の生理生態と飼育環境			
9	飼育環境の調節	家畜の飼育環境を理解させる。 家畜と環境問題を含め理解させる。 〈実験・実習内容〉 堆肥舎・牧草地・飼料の違いを実践で学ぶ	一斉授業 実習観察	中間考査 学期末考査
10	家畜排泄物の処理と利用			
11	家畜と飼料			
12	家畜の消化器官と消化吸収			
1	酪農・肉牛の特性	牛の品質・肉牛の特性について理解させる。 〈実験・実習内容〉 体各部の測定法、肉牛の去勢・除角	一斉授業 実習観察	学年末考査
2	牛の品種と選び方			
3	酪農・肉用経営			

3. 評価の観点と方法

知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
畜産、特に牛の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、家畜の意義や役割を理解している。 【考査、レポート、授業態度】	畜産に関する諸問題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、農業に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。 【考査、レポート、授業発表】	畜産に関する諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。 【授業態度、出席状況】

4. 評価の規準(評価項目については、各教科・科目で検討ください)

評価の観点 評価項目	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	比率(%)	その他
定期考査	15	10	5	30	学習到達度の確認
平常考査	10	10		20	
提出物等	5		5	10	予習・復習の確認
授業態度・発表	10	10	10	30	取り組む姿勢
出席状況			10	10	授業参加意欲
合計	40	30	30	100	目標到達度評価（+α）

科目「動物産業Ⅰ」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	農業	単位数	2単位	学年・学科	2学年 畜産科学科
使用教科書	動物愛護社会化検定基礎級試験合格問題集				
副教材等	動物愛護社会化検定専門級試験公式テキストブック				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	伴侶動物（主としてイヌ）の生理・生態及び特性、飼育管理、動物の愛護に関する法律を学ぶ
学習の到達目標	動物愛護社会化検定専門級程度の知識を身につける
取得可能な資格	動物愛護社会化検定 基礎級・専門級
授業を受ける心構え	積極的に授業に参加し、忘れ物をせず、きちんとした身だしなみで授業を受ける

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4 5 6 7	野生から家畜、さらに ペットへ 犬と猫の生理	・犬・猫の起源と家畜化について理解する ・古代・中世・近代の西洋社会と日本社会における人間と動物について理解する ・体の基本の仕組みと体内の循環機能を理解する	・一斉授業(座学) ・生態についてのグループ発表	中間考査 学期末考査
9 10 11 12	犬と猫の健康とケア 緊急症状とその応急対 応 ペットに関する法律	・動物の健康状態を知り、各種ケアについて学ぶ ・各器官系の疾患と感染症及び事故についての緊急対応の方法について理解する ・動物に関する関係法令を学ぶ	・一斉授業(座学) ・ケアについての検索	中間考査 学期末考査
1 2 3	犬の飼養管理 犬のグルーミング 犬のしつけ	・学校にいる犬を教材とし、毎日の生活管理(グルーミング)とトリミング、犬のしつけを実践し理解する	・実習	学年末考査

3. 評価の観点と方法【 】は評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
愛玩動物の各分野に関する基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、動物愛護の意義や役割を理解している。動物愛護に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。 【考査、学習ノート、問題演習】	動物愛護に関する諸問題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、動物愛護に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。 【レポート、タブレット検索】	動物愛護に関する諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。 【個人ワーク、ペアワーク（共同作業）】

4. 評価の規準

評価の観点 評価項目	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	比率(%)	その他
定期考査(平常)	30	5		35	学習到達度の確認
提出物・課題		10	10	20	課題の確認
授業態度・発表		5	10	15	取り組む姿勢
出席状況			10	10	授業参加意欲
資格取得	10	10		20	目標到達度評価(+α)
				100%	

科目「動物産業Ⅱ」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	農 業	単位数	2 単位	学年・学科	2 学年 畜産科学科
使用教科書	畜産（実教出版）				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	豚・野生動物の施設から経営、特徴等を学ぶ
学習の到達目標	豚・野生動物の基礎・基本、経営技術を培う 三年次専攻学習への基盤を身に付ける
取得可能な資格	なし
授業を受ける心構え	命に携わっている自覚と責任、学ぶ姿勢を育む

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4 5 6 7	豚の特性 豚の品種と選び方 養豚の施設・設備と利用	・豚の生理・生態について知る ・豚の消化吸収について知る ・豚の歴史と品種改良について知る ・豚の飼育環境と飼育設備の特徴を理解する	・一斉授業(座学) ・実習・観察	中間考查 学期末考查
9 10 11 12	豚の繁殖 子豚の育成 肉豚の肥育	・繁殖豚の生理的特徴について理解する ・豚の生殖器について理解する。 ・子豚の生理的特徴について理解する。 ・肉豚の生理的特徴について理解する。	・一斉授業(座学) ・実習・観察	中間考查 学期末考查
1 2 3	豚肉の流通 豚の病気と予防衛生 養豚の経営	・豚の加工技術を知り理解する ・豚の病気とその原因について理解する ・養豚の経営形態について理解する	・一斉授業(座学) ・実習・観察	学年末考查

3. 評価の観点と方法

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
豚・野生動物の品種や習性に関心を持ち、実習に対しても意欲を持って積極的に参加し、豚と野生動物について理解する。 【授業態度、出席状況】	学ぶ目的と学び方、及び学習分野について考察する。 【考查、レポート、授業態度】	調べ学習の目的に応じた資料を適切に判断して活用できる。授業で学んだ知識を実習で活かすことができる。 【授業態度・発表】	豚・野生動物の特性に関する基礎的な知識を身につけ、産業としての価値を理解する 【考查、レポート】

4. 評価の規準(評価の観点については、各教科・科目で検討ください)

評価の観点 評価項目	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	比率(%)	その他
定期考查	20	10	5	35	学習到達度の確認
平常考查	10	10	5	25	学習到達度の確認
提出物等	10	5	5	20	予習・復習の確認
授業態度・発表		5	5	10	取り組む姿勢
出席状況			10	10	授業参加意欲
競技会・資格取得					目標到達度評価(+α)
	40	30	30		
				100%	

科目「動物産業Ⅲ」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校

生徒用

教科	農 業	単位数	2 単位	学科・学年	畜産科学科 2 学年
使用教科書	生物活用（実教）				
副教材等	馬学（上）（下）・畜産（実教）				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	馬と触れ合いながら、知識・技術を身につける
学習の到達目標	馬の歴史や生理・生態についての正しい知識・技術の習得
取得できる資格	なし
授業を受ける心構え	馬の歴史や特徴を理解する

2. 学習指導計画

月	学習内容	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4	馬の歴史	馬の歴史を理解する	一斉授業(座学)	学期末考査
5		時代別用途を理解する		
6	馬の品種	馬の品種の特徴を理解する		
7		軽・中間・重種・ポニー		
9	馬体の名称	頭部特色の理解	一斉授業(座学) 実習・観察	中間考査
10		馬の毛色を理解する		
11	馬の健康管理	馬の健康状態を理解する		
12	馬の装蹄	馬の蹄を理解する		
1	馬の歯列	馬の歯の特徴を理解する	一斉授業(座学)	学年末考査
2	馬の生殖器	生殖器の特徴を理解する		
3	まとめ	年間のまとめ		

3. 評価の観点と方法

評価の観点	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	馬の特性に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、産業としての価値を理解する。	学ぶ目的と学び方、及び学習分野について考察する。	馬の特性や生態・習性に関心を持ち、意欲的に実習にも参加する。
評価の方法・割合	【考査、レポート、授業態度】	【考査、レポート、授業態度、発表】	【授業態度、出席状況】
	4 割	3 割	3 割